

リサーチパネル 研究紹介

富士五湖湖底から探る富士火山

地球科学研究室

こしみず さとし
輿水 達司
 うちやま たかし
内山 高
 たかやま みわ
高山 美和

今から二年程前の2000年10月から12月にかけて、富士山の直下で低周波地震が頻繁に認められました。低周波地震とは、ふつうの地震に比べ周期の長い地震のことです。この低周波地震については、昨年夏に当研究所で開催されたシンポジウムで、防災科学技術研究所の鶴川元雄博士による詳しい講演がなされました。それによると、富士山の過去20年間の観測の中で、2000年後半から2001年前半にかけては低周波地震の発生頻度において、明らかに異常であったと説明されています。この“低周波地震騒動”をきっかけに富士山の将来を考えると、富士山はいつか噴火する活火山であることを多くの人が改めて認識しました。それとともに、富士山の現状のみならず過去の噴火活動歴についても把握することが重要になってきました。

富士山の活動については約1万年前あたりを境にして、それ以前を古富士、それ以降を新富士のステージに一般に区分されています。新富士、古富士のそれぞれの時代に活動した噴出物の分布を見た場合、古富



写真1 山中湖湖底ボーリングコアの掘削風景

士の噴出物の多くは新富士の熔岩や火山噴出物に覆われています（図1）。そのため、古富士時代の噴出物や堆積物が地表で確認できるのは、富士山の東麓や南麓の一部に限られています。富士五湖が形成されている北麓側には、古富士時代の噴出物等は、地表にほとんど顔を出していません。

我々の地球科学研究室では、富士五湖の成り立ちや富士五湖周辺的环境変遷史の解明を目的に、これまで山中湖、河口湖、本栖湖でボーリング調査を行ってきています（写真1）。この研究を進める上で最も大切なこととして、ボーリングコア試料に年代的な情報を与えることについては昨年度のニューズレター（Vol.5 No.1）で説明したとおりで

す。その作業を進めてきた結果、山中湖底をはじめとする我々が掘削したボーリングコア試料のいずれからも、古富士の時代に遡る富士山の火山活動が記録されていることが明らかになりました。河口湖にしても本栖湖湖畔にしても、その地下には古富士時代に活動した溶岩が認められました。このように、陸上部の調査・観察からは得られない情報がボーリングコア試料からは明らかにできる利点があります。古富士時代の噴火活動を科学的に解明する手掛かりの少ない状況の中で、我々が手にしているこれらのボーリングコア試料の解明を進め、富士山の噴火に対する防災上の対策はもちろん、富士山の全体像を把握したいと考えています。

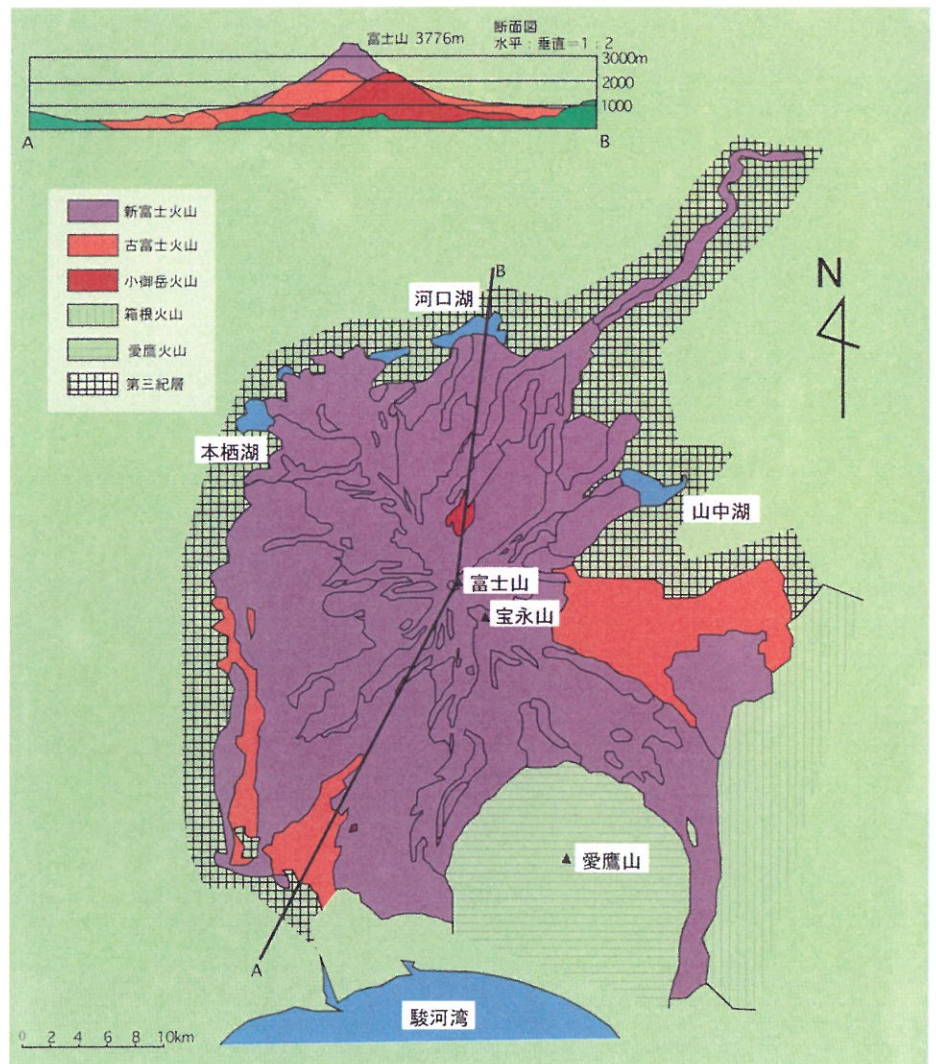


図1 富士山の地質図（津屋、1971を簡略化）